

台湾共同研究

立命館高等学校SSH科学技術人材育成重点事業として、本校を含めたSSH8校が連携し、「台湾共同研究」が2017年3月から行われています。物理・化学・生物の各分野で台湾の高校生を交えたチームを編成し、メールやSkypeミーティングを用いて連絡をとり、共同研究を行うプログラムです。本校ではSSHクラスから2名の生徒が参加し、物理分野で「人工筋肉」の研究をしてきました。7月26日から31日には台湾にある高雄高級中学と高雄女子高級中学を実際に訪れ、台湾の生徒と直接会って議論を行い、研究の中間発表を行ってきました。また、研究の最終的な成果は、11月3日から京都で行われるJapan Super Science Fair 2017で発表されることが決まっています。

海外研修で大事なこと

3年10組 長澤 永知

今回の台湾研修で一番感じたことは「英語力の高さは外国人とコミュニケーションをとるのに、必ずしも必要ではない」ということです。もちろん英語をうまく話せる方が自分の気持ちや考えを正確に伝えることができ、内容の濃いレポートをたくさん書くことができます。しかし、今回の研修中では英語が得意ではない私でも台湾の生徒と仲良く話すことができ、また一緒に難しい内容の実験を進めることができました。文法的にも間違いが多く、単語を並べただけのような会話でしたが、緊張したままで会話を諦めてしまうのか、それともおかしな言い回しでも勇気を出して相手に伝えようとするのかの違いで、今回の研修の成果を大きく変えられたと思います。立命館大学の先生が講義で「緊張は自己中心的な感情」という話をされました。この考えはこれからの私の人生で大事になってくると思います。今回の研修での経験を今後に生かしたいと思います。



発表に向けて議論中

言語の壁

3年10組 稗田 裕樹

私は、この台湾共同研究に参加することができて非常にうれしく思います。なぜなら、高校生のうちに海外の生徒と同じ目標に向かって共同で実験するという機会は、なかなか巡り合えないと思ったからです。いくつもの障害がありましたが、なかでもコミュニケーションに関しては一番の課題でした。普段からメールなどを利用して英語で情報のやりとりをしていましたが、時間の調整がうまく合わなかったり、自分の意見を伝えたいという場面でも、うまく伝えることができなかつたりしました。しかし台湾の生徒は、私の英語を聞こうと努力してくれました。必死に伝えようとしていることをくみ取ってもらい、協力できたおかげで時間はかかってしまいましたが、無事実験を進めることができました。この共同研究では多くの困難と喜びがありました。それらをただの思い出にするのではなく、どこを改善すればより良くなるのかをしっかりと考えて、次につなげていきたいです。



淡江大学にてロボット工学を学習



研究の中間発表



高雄滞在中、お世話になったホストファミリーと